

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成20年11月1日開所時は運営方針のみであったが今年5月職員より基本理念の公募を行い、職員会議の中で基本理念を決定した	職員で理念の検討を行い、「明るく・楽しく・サンサン家族」という理念を作成しました。理念については、目に付く所に掲示するのは勿論、どのように業務やケアに繋げていけるか全職員で検討し、実践に向け取り組んでいます。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週に3回の食材購入や月に1度の外食の際地元のお店を利用し、日々の中の散歩では地域の方たちと挨拶を交わす。月に3回地区のぶれジョブを受け入れており、今後秋以降には地域のボランティアの方に調理ボランティアを予定している	地元の小学校の運動会や地域の行事への参加などを通じ地域との交流をしているほか、障害者の方の職業体験の受入も行っています。今後は、グループホームとして地域の方も参加できる祭りを行いたいと考えています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方たちへ知識や技術をお伝えする講習会の機会はないが管理者はしないで開催されている研修会の講師を務めそのなかで認知症ケアに関する実践を紹介。また人材育成として実習生の受け入れを積極的に行っている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では報告だけでなく事業所の抱える課題についての検討や相談を行っており委員より助言をいただいている。	運営推進会議は民生委員、包括支援センター職員等に参加して頂き開催しています。業務内容・行事だけでなくホーム内で起きた課題等について話し、意見をもらい話し合う貴重な機会となっており、サービス向上に活かしています。	今年度は年に4回の開催となりました。今後は年に6回の開催ができるように計画を立てていただけることを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の担当者との連絡は必要時実施。連携まではいたっていない。今年度より東区のグループホーム連絡会を企画し、同区内のグループホーム同士の連携を図る試みを実施し始めたところ	法人が地区の地域包括支援センター事業を受託していることもあり、随時相談し助言を受けています。また、今年度より新潟市東区のグループホーム4ヶ所で会議を持つ機会を設け、情報の共有をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する内部研修を実施。離設事例についてもカンファレンスの際に施錠しない支援について職員間で話し合った	身体拘束について、全職員が共通認識を持てるよう研修を行っているほか、ご利用者のケースに応じた検討を行うことで徹底をしています。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修やカンファレンスの中で確認。職員のご利用者への処遇で虐待めいた対応が無いか確認している。	ホーム内では「身体拘束」と合わせて研修、会議で話し合い、日頃のケアで見過ごされることがないように全職員で注意を払い防止に努めています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は県の日常生活自立支援事業の委員になっており制度についての理解はしている。職員もおおまかな理解はしている。ご利用者でも事業の利用が必要と思われる方がおり、随時地域包括支援センター職員へ相談している。		
9		契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約(退居)はまだない。契約にいたる前の段階の見学、事前訪問で疑問を解決できるよう対応している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。法人の質の向上委員会が中心となり利用者の満足度調査を実施している。また苦情対応委員会において苦情ヒヤリハットを作成。気がついたときに報告し内容について検討している	職員がご利用者に直接聞き取りを行い満足度調査をしており、法人の質の向上委員会にて検討をしています。今後はご家族に対してのアンケートも検討しています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の中で職員の意見を聞いたりみんなで検討しあっている。また半年に1回業務や職場に対する思いや反省、今後の希望について記述し提出している。管理者との面接ももうけている	グループホーム独自で年に2回、職員一人ひとりの目標や業務についての反省や感想を提出してもらい、個別に管理者との面談の機会を設け、業務に反映できるように検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善交付金の申請や老協の派遣制度の利用など実施。毎月職員が研修を受講できる機会をもうけている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に関する研修受講に関しては休日調整するなど配慮し、技術の練習などにも相談にのっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年5月より東区グループホーム連絡会を開催。認知症介護実践者研修受講生の実習の受け入れも行っている。また包括主催の地域ケア会議や事例検討会への参加により地域の同業者との交流を行っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時やその後の見学、事前訪問また入居までの間の下見等で本人の不安を軽減出来るようにしている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できるだけ入居申し込み時ホームへ来ていただき雰囲気を感じていただいたり職員と直接話をしながら、また他利用者の様子をみていただき疑問や不安を軽減している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの際グループホーム以外のサービス利用についてもご家族や居宅のケアマネージャーと確認や相談を行っている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の配慮の気持ちを感じながら生活の場面の中でさまざまなことを教えていただき尊重の気持ちを忘れずに生活している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の日頃の様子をよいこともそうでないところも報告し、本人と家族の関係が切れないように、本人の支援を共に行っている。またその際は家族の負担にならないような配慮をしている	年に4回の広報誌を作成及び毎月お手紙を作成しお送りしているほか、11月にご家族会を実施し、ご家族への情報提供と協力の要請を行っています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時からの医療機関への受診や命日のお墓参り、床屋、以前行っていたラーメン屋へ食べに行くなど支援をしている	年に1回の『2人でデート』では、職員がひとり専任でご利用者に付き添い、ご利用者の希望に応じ、お墓参りや外食に連れて行くなどして、馴染みの関係が途切れないように支援しています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行により利用者同士の関係性にずれが生じていることはホーム内で課題となっている。日々の生活の中で役割分担をしながら協力はし合っている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在のところ契約修了者はいない		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今年2月に満足度調査を実施。日々のかかわりの中で本人の意向を確認しながら支援してはいる。言葉で表現できない方に関しても表情や態度を観察し気持ちを推し量っている	ご利用者への満足度調査にて、思いや意向の把握は定期的に行っています。また、日々のケアについても1日に4回申し送りを行う中でご利用者の意向について職員間で共有できるようにしています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話や家族からの情報、ふとした会話の中にも生活歴ががいま見れるときがある。マンツーマンの外出の計画の際も把握するよう心がけている	入居時にご本人、ご家族より、聞き取りを行い、これまでの暮らしの把握に努めています。今後は、日々の経過記録からフェイスシートへの情報の追加が課題だと考えています。	日々の支援の中で得られた情報をもとに定期的にフェイスシートを見直す仕組みを検討されることを期待します。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの行いたい生活を重視し、強制しない過ごし方を心がけている。日によってあるいは1日の中で心的変化が見られることもあるがそれを把握し職員間でも細かく報告しあっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とは日々の生活の中での会話から意向を確認。毎月のカンファレンスや職員会議、申し送り時職員と話し合っている。家族とは面会時や必要時は電話で意向を確認するなどしている。	毎月のカンファレンス及びモニタリングにて職員間で情報を共有し、ケアマネージャー・計画作成担当者である管理者がご本人・ご家族の意向を把握し、介護計画を作成しています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙の中に「項目」欄をもうけ、記録を書きやすく、見やすくしている。記録の記述も細かく本人の状態について記載している。また連絡帳の活用により、より留意すべき点を確認しあっている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望時の家族の宿泊や本人の外出外泊についても柔軟に対応している		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員が出席しておりボランティアの活用につながった。社協の福祉バスの利用により外出がより行いやすくなっている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関への定期受診は2名。その他の方は在宅字からの医療機関を希望し継続している。予防接種等は協力医療機関を利用している	ご本人・ご家族の希望を大切に、今までのかかりつけ医に受診の方が殆どです。医師への情報提供でお手紙を作成したり、状態が気になる方については受診に同行するなどして受診支援を行っています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の雇用はされていない。法人内の他部署の看護師へ必要時相談し、助言したり実際見ていただいている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の同行や入院中退院時医療相談員と連絡を密にしながら情報を共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後について家族と、また運営推進会議のなかでも話し合い職員間でも検討している。必要時地域包括支援センターへ相談している	入居時、ご本人・ご家族の意向を確認し、重度化した際のホームでの対応について説明をしています。医療的な支援が必要なければ終末期までホームで対応したいと考えており、今後のご利用者の状態を見ながら検討していきたいと考えています。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者はMFA救急法の指導者の資格を取得しており、年に1回のAED講習会の際AEDの使用法だけでなく救急時の流れについて職員へ周知している。また医療についての勉強会や講習会を職員が交代で受講している	管理者はMFA(メディックファーストエイド)救急法の指導者講習を受講しており、職員へAEDの研修時に救急時の対応について徹底しています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中の避難訓練については実施しているが夜間想定訓練はまだ実施していない。地域との協力体制はできていないが、ホーム前には施設長と法人職員宅があり緊急時の連絡先となっている。	年に2回定期的な避難訓練を実施しており、防災訓練のマニュアルの見直しも行いました。今後は夜間を想定した訓練を行いたいと考えています。	夜間を想定した避難訓練を実施し、昼夜を問わず避難できる体制を徹底されることを期待します。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の居室へ入室する際は本人に断りをいれるよう配慮しており、本人不在時に勝手に入室しないよう心がけている。排泄の有無に関しても他者に聞えないような配慮をしている。利用者のプライベートな話や記録の記入に関しては利用者の目の触れないところで行っている	誇りを傷つけないようさりげない言葉かけや対応に努めています。記録等個人情報は鍵のかかる所に保管し、記入は事務室や休憩室等目に触れないよう配慮しています。広報誌をお送りする時や事業所の写真の掲示についてもご家族からの同意を得ています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の場面の中で利用者の一つ一つ確認しながら支援している。すべての思いを表出しているとは思えないが「言いやすい関係」づくりを築くよう努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	3食と午前午後のお茶の時間を軸にその他の活動についてはそれぞれ思い思い過ごしていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が季節や気候に合わせて衣類を選んでおり自身では難しい方には一緒に選ぶようにしている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく身体に良い食事の提供を心がけており、本人の嗜好や食事の形態にも配慮している。そのつど本人に聞きながら準備している。食事の準備や後片付けなど利用者それぞれの得意不得意をみながら行っている	食事は生活の大きな楽しみと自立支援の場と考え、食材の買い物、食事の準備や配膳、後片付け等をご利用者と一緒に行っています。献立は管理者以外の職員で考え、法人の管理栄養士にアドバイスをもらっています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録や体調の変化に応じて必要時詳細な記録をつけている。食事の盛り付けも一人ひとりの食べられる量にあわせて行っている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前は体操・歌・アイスボールを口に含んでいただくなど嚥下が良好にできるよう工夫している。個々に応じて声かけ・見守り・介助を実施し、訪問歯科の活用と連携により口腔ケアについて留意している		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の不安や思いを大切にしリハビリパンツやパットの使用については選んでいただいている。認知症の進行や身体的な状況により職員の介助が必要な方に関してはプライバシーに細心の注意をし支援している	チェック表によりご利用者に応じた排泄パターンを把握しています。排泄場面は一番触れられたくない部分のため、ご利用者の心理を推測したさりげない対応に心がけ支援しています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食品・食材の工夫により便秘にならない環境に留意している。運動が不足気味なため改善策を検討する必要があると思われる		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望や身体の清潔に留意した入浴を実施している	職員と1対1で過ごす大切な時間として楽しみにしている方もおり、希望やタイミングに合わせて、ほぼ毎日の入浴を支援しています。お風呂が好きな方へは温泉へ連れて行くなどの支援も行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの体力や生活リズムに合わせて休息の時間をとっていただいている。夜間に関しても職員が安眠を妨害したり利用者を不用意に不安にしたりしないよう配慮している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルにより個々の利用者の使用している薬を理解し、確認できるようにしている。また内服薬等変更字は記録に記載することで周知している。服薬時は2人の職員で確認し事故の防止をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で役割、書道教室の開催また、職員との2人でデートなど個別のニーズに対応するよう努めている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回の外出、天気の良い日の散歩のほか2人でデートなどで日常的な外出や行事を実施している。その際ボランティアや家族の同行もある。施設の玄関前がすぐ道路なので一人での散歩の実施は難しい	月1回利用者全員とご家族に参加を声かけし、外出や外食を実施しています。その日の気分や希望にそって、買い物や散歩等日常的な外出は勿論、担当職員との外出する「2人でデート」を年に1度設け、一人ひとりに合わせた外出も支援しています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかい程度もっている方はいる。管理することが難しい方に関しては事務所でお預かりしている。買い物目的の外出を企画し、自分で支払うこともしていただいている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話をいただくことはあっても利用者から行くことは無い。電話に関しては使用を制限することは無い		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度やあかりの色合いなどに配慮し、音楽を流すなど利用者の心地よい生活作りに努めている	ご利用者の意見を伺い、玄関をプランターの花で飾ったり、木目調の屋内は花や貼り絵で季節感のある明るく温かな雰囲気です。フロアには和室スペースが設置され、思い思いに居心地よく過ごせるような工夫がされています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・リビング・和室はワンフロアーになっており思い思いに過ごすスペースができています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人のなじみのものを持ち込んでいただいたり、購入する方に関しても本人とご家族で選び納得したものを使用している。	ご本人・ご家族と相談し、写真や手作りの物、使い慣れたものや好みのものを活かして、家具や寝具等自由に設置してもらい、ご本人らしい居室づくりを支援しています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所の表示や自室への名前表記などはあらかじめ最初から付けたものではなくご本人の状況に応じて利用者・家族と相談して設置している		